教　職　基　礎　論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２５５８１
開講時期：Ⅱ期金曜５限
担当教員：小　熊　伸　一
所　　属：中　部　大　学
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）１　　年

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教職の意義や教員の役割を理解するとともに，教員の職務内容（研修・服務および身分保障等を含む）に関する基礎知識を学び，将来，教職に就くための基礎を学習することを目的とする。また，教職課程についての履修ガイダンスを実施し，学生自らの履修計画を明確にさせ，教職適性を判断するための様々な機会の提供を行う。

●授業内容

１．開講にあたってー授業の概要ー
２．教職の意義ー教職とは何か
３．教師の役割と仕事
４．教員の職務内容ー学校と教職員組織，教員の職務
５．教員の服務内容ー教職員の身分，教職員の服務
６．教師と教員養成の歴史①戦前
７．教師と教員養成の歴史②戦後
８．授業を創る①教育課程
９．授業を創る②授業づくり
10．生徒の成長を援助できる教師に
11．一人一人の生徒の「学び」に目を向けて
12．教育実習の意義と心得
13．教職への進路選択と教員採用候補者選考試験
14．教育改革の動向ー初等・中等教育を中心にー
15．まとめ

●成績評価の方法　最終レポートの提出(50%)，小レポート(30%)，授業への参加態度(20%)の総合評価で行う。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。６回以上授業を欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　教科書は使用しないが，毎回レジュメを配布する。

●参考書　その都度紹介する。

教　職　基　礎　論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２２５８２
開講時期：Ⅱ期火曜５限
担当教員：三　宅　正　夫
所　　属：元愛知県立高等学校長
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）１年，３・４年，そ　の　他

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教職を目指して大きな志を抱き，学ぶ意欲のある人を対象として，教育の歴史・制度・法令などを学ぶとともに，教育実践を展開する中での諸課題，教師の服務・職責・職務などの基礎・基本事項について概説する。また，コミュニケーション能力・自己表現力が高まるように，課題演習・スピーチなどを十分に取り入れ，望ましい教育者としての資質・能力・品格・態度などが身につくような講義を目指す。

●授業内容

１．開講にあたってー教育は人なり，人は出逢いなり，出逢いは感動なりー
２．教育の歴史と思想（１）歴史に残る西洋の教育者たちに学ぶ
３．教育の歴史と思想（２）歴史に残る日本の教育者たちに学ぶ
４．憲法・教育基本法・教育法令（１）憲法・教育法令などにみる教育の理念
５．憲法・教育基本法・教育法令（２）憲法・教育法令などにみる教員の服務と職責
６．都道府県教育委員会と学校運営ー学校運営に関わる教育行政の組織と役割ー
７．都道府県教育委員会の教育施策ー東京都・愛知県などの教育施策を例としてー
８．学習指導要領と教育課程ー学校改革を促す教育課程の意義と役割ー
９．学校経営とホームルーム経営ー学校・家庭・地域の信頼関係構築を目指してー
10．生徒指導の意義と諸課題への対応ー生徒指導における危機予防と危機管理ー
11．学校行事，特別活動，部活動などへの指導ー当面する諸課題と指導の実際ー
12．現代の教師像（１）情報教育・環境教育における諸課題と指導の実際
13．現代の教師像（２）多文化共生社会における諸課題と海外での教育実践
14．現代の教師像（３）謙虚さとグローバルな視野でチャレンジする教育実習
15．閉講にあたってー出逢いと感動，初心と謙虚さを大切にする教育者を目指してー

●成績評価の方法　出席・履修態度・課題演習・スピーチなどで総合的に評価します。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。毎回，出・欠席を確認・記録。欠席回数が一定基準内（３回）より多い場合が「欠席」扱い。ただし，欠席回数が一定基準内（３回）でも課題などの未提出・成績不良等の者は，Ｆ（「不可」）。講義の第１回目にはオリエンテーションを実施しますので，必ず出席をしてください。

●教科書　特に指定しません。独自のプリント・資料等を配付します。

●参考書　講義の中で随時紹介します。

教職基礎論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２２５８３
開講時期：Ⅱ期火曜５限
担当教員：三羽光彦
所属：芦屋大学
対象：理系（情〔自〕・理・工・農）1年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

今，人類は何十万年の歴史の中でも大きな曲がり角に直面している。そんな中で，教職をめざす者は，なによりも広い視野から人類とその歴史・未来に限りない愛情を持つものでなくてはならない。それこそが様々な知識や技術に先立つ教師の資質である。広い教養と柔軟な知性そして豊かな感性があれば，取り立てて教職のための技術的・専門的な能力を学生時代から修得しておく必要はない。学ぶことを喜びと感じる人ならば誰でも教師になりえるということができる。しかし，この社会には様々な職業が存在する。医者・研究者・公務員・会社員など，現代はどの職業をとっても教育的な意味をもつものが多い。この授業を履修して，そこから得たものを大学での学びの原点としながら，将来の職業選択の一助としてもらいたい。授業の中で数時間，教育関係のビデオを視聴してもらい，１・２時間学外講師の講演を予定している。

●授業内容

1．はじめに---教育とは何か
2．人間の発達と教育---生物としての人類，進化・文明と社会，人間とは何か
3．現代の教師にもとめられるもの（学外講師の講演）
4．現代社会と教育---産業構造の高度化とグローバリズムのなかの青年の自立の問題
5．中学校教師のあり方（ビデオ視聴）
6．公教育の意義，あり方---初等・中等・高等教育の制度と特徴，六・三・三制の意義
7．教育課程と学習指導要領---教育の内容と編成，中等教育課程の諸問題
8．高等学校教師のあり方（ビデオ視聴）
9．現代教育危機の本質---欲望の解放と共同性の喪失，学力問題の諸相とその本質
10．学校の役割と教師の使命---教師という仕事，公務員としての教師，教員の職務，服務
11．校長の役割（ビデオ視聴）
12．教師に類似した職種の探求---研究者，学校職員，ジャーナリスト，著述業等
13．塾教師・研究者のあり方（ビデオ視聴）
14．地域教育自治と現代の学校教師の在り方（学外講師の講演）
15．まとめ---現代の学校教師の役割

●成績評価の方法

レポート，試験，出席状況によって総合的に評価する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から11月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。加えて，定期試験を欠席した場合，あるいは，６回以上授業を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

指定しない。プリントなどで授業を行う。

●参考書

授業中適宜紹介する。

教育原理

時間割ｺｰﾄﾞ：００２２５８１
開講時期：Ⅱ期火曜５限
担当教員：松下晴彦
所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科
対象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）1年

●本講義の目的及びねらい

本講義は，変貌する世界における教育の役割について，人間・社会・文化との関連で考察することを目的とする。授業では，人間の育成と成長に関わるさまざまなテーマや課題，またこれらを実現するためのわが国の課題を取りあげて，教育の現状についての理論的背景や基礎的理解を得るとともに，これからの教育に関する自らの見解や視座をまとめ，批判的に思考する力を伸ばすことをねらいとする。

●授業内容

1．オリエンテーション：専門職としての教師
2．人間像の揺らぎと教育
3．社会の変容と学校教育
4．学習観と知識観のスペクトラム
5．現代の倫理と教育
6．生涯学習という考え方
7．学校とその機能不全：社会学的分析
8．学校教育・家庭・地域社会
9．学校教育：カリキュラムの歴史（１）
10．学校教育：カリキュラムの歴史とその類型（２）
11．学力の捉え方：日本の学力観とPISA
12．ジェンダーと教育
13．国民教育と市民教育
14．宗教教育のあり方について
15．まとめ：今後の教育の課題について

●成績評価の方法

リアクションペーパー（３回程度：30%），定期試験(70%)により評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から11月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。加えて，定期試験を欠席した場合も「欠席」と扱い，これら以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

指定しない。

●参考書

指定しない。

教　育　原　理

時間割ｺｰﾄﾞ：００２４５８１
開講時期：Ⅱ期木曜５限
担当教員：三　宅　正　夫
所　　属：元愛知県立高等学校長
対　　象：理系（理）１年

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教職を目指して意欲のある人を対象として，激動する我が国の教育を省察し，尊厳のある人間を育てる教育に必要不可欠な基礎・基本事項を概説する。特に，「温故知新」をキーワードとして，教育の歴史・思想，憲法，教育基本法・学校教育法などの法令，教育施策,教育の諸課題などを総合的に学ぶことにより，「教育の本質」を追究し，現代の教育が求める「生きる力」を具現化するような講義を目指す。

●授業内容

１．開講にあたってー「温故知新」に学ぶ教育ー
２．教育とは何かー「歴史的名言」に学ぶ教育ー
３．教育の歴史に学ぶ（１）西洋における教育の歴史と教育理念
４．教育の歴史に学ぶ（２）我が国における「近代教育制度確立」以前の展開
５．教育の歴史に学ぶ（３）我が国における「近代教育制度確立」以降の展開
６．教育の歴史に学ぶ（４）憲法・教育基本法などの施行と「戦後教育」の展開
７．「戦後教育」の省察と教育改革の動向ー教育基本法・教育三法などの改正ー
８．文部科学省の「教育振興基本計画」及び各都道府県教育委員会の「教育施策」
９．現代の教育課題（１）全体の奉仕者としての教員の資質向上と現職研修
10．現代の教育課題（２）学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の意義
11．現代の教育課題（３）いのちと人間の尊厳を重んじる教育
12．現代の教育課題（４）学校での情報教育と異文化理解教育
13．現代の教育課題（５）教育判例から学ぶ学校における危機予防と危機管理
14．教育実践への展望ー国際協調時代を生きるグローバルな教育の推進ー
15．閉講にあたってー「温故知新」に学び，「生きる力」を具現化する教育ー

●成績評価の方法

出席・履修態度・課題演習・スピーチなどで総合的に評価します。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。毎回，出・欠席を確認・記録。欠席回数が一定基準内（３回）より多い場合が「欠席」扱い。ただし,欠席回数が一定基準内（３回）でも課題などの未提出・成績不良の者は,Ｆ（「不可」）。第１回目にはオリエンテーションを実施しますので,必ず出席をしてください。

●教科書

特に指定しません。独自のプリント・資料等を配付します。

●参考書

講義の中で随時紹介します。

教　育　原　理

時間割ｺｰﾄﾞ：００２３５８２
開講時期：Ⅱ期水曜５限
担当教員：三　宅　正　夫
所　　属：元愛知県立高等学校長
対　　象：理系（情〔自〕・工・農）１年，3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教職を目指して意欲のある人を対象として，激動する我が国の教育を省察し，尊厳のある人間を育てる教育に必要不可欠な基礎・基本事項を概説する。特に，「温故知新」をキーワードとして，教育の歴史・思想，憲法，教育基本法・学校教育法などの法令，教育施策,教育の諸課題などを総合的に学ぶことにより，「教育の本質」を追究し，現代の教育が求める「生きる力」を具現化するような講義を目指す。

●授業内容

１．開講にあたってー「温故知新」に学ぶ教育ー
２．教育とは何かー「歴史的名言」に学ぶ教育ー
３．教育の歴史に学ぶ（１）西洋における教育の歴史と教育理念
４．教育の歴史に学ぶ（２）我が国における「近代教育制度確立」以前の展開
５．教育の歴史に学ぶ（３）我が国における「近代教育制度確立」以後の展開
６．教育の歴史に学ぶ（４）憲法・教育基本法などの施行と「戦後教育」の展開
７．「戦後教育」の省察と教育改革の動向ー教育基本法・教育三法などの改正ー
８．文部科学省の「教育振興基本計画」及び各都道府県教育委員会の「教育施策」
９．現代の教育課題（１）全体の奉仕者としての教員の資質向上と現職研修
10．現代の教育課題（２）学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の意義
11．現代の教育課題（３）いのちと人間の尊厳を重んじる教育
12．現代の教育課題（４）学校での情報教育と異文化理解教育
13．現代の教育課題（５）教育判例から学ぶ学校における危機予防と危機管理
14．教育実践への展望ー国際協調時代を生きるグローバルな教育の推進ー
15．閉講にあたってー「温故知新」に学び，「生きる力」を具現化する教育ー

●成績評価の方法

出席・履修態度・課題演習・スピーチなどで総合的に評価します。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。毎回，出・欠席を確認・記録。欠席回数が一定基準（３回）より多い場合が「欠席」扱い。ただし,欠席回数が一定基準内（３回）でも課題などの未提出,成績不良の者はＦ（「不可」）。第１回目の講義にはオリエンテーションを実施しますので，必ず出席をしてください。

●教科書

特に指定しません。独自のプリント・資料等を配付します。

●参考書

講義の中で随時紹介します。

教育制度論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２４１８１
開講時期：Ⅱ期木曜１限
担当教員：川口洋誉
所　　属：愛知工業大学 基礎教育センター
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）1年

●本講義の目的及びねらい

本講義は，現代日本における公教育制度の法的な理念と構造について，特に2006年12月に改正された教育基本法に焦点をあてて概説し，学校教育を中心に公教育制度の基本原則とその仕組みを理解することをねらいとする。

●授業内容

1．ガイダンス
2．教育制度とは何か・なぜ教育制度論を学ぶのか
3．現代教育法の原理と構造（1）日本国憲法と権利としての教育
4．現代教育法の原理と構造（2）教育基本法の意義とその改正
5．教育行政（1）教育委員会制度の意義とその展開
6．教育行政（2）犬山市教育委員会の取り組み
7．学校制度（1）一条校中心の学校制度の意義と弊害
8．学校制度（2）学校設置者の限定とその例外
9．学校制度（3）義務教育
10．教員制度（1）免許・身分・服務・研修
11．教員制度（2）教員配置，校内組織，不適格教員
12．教員制度（3）教員養成制度の課題と展望
13．教育内容の制度（学習指導要領，教科書）
14．学校における愛国心，国旗・国歌をめぐる問題
15．試験

●成績評価の方法

定期試験(60%)，小レポート(30%)，出席状況(10%)

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から11月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」扱いとし，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

川口洋誉・中山弘之編『未来を創る教育制度論（仮）』（北樹出版,2013年4月）

●参考書

市川須美子ほか編『教育小六法（2012年度版）』（学陽書房）

教育制度論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３１５８２
開講時期：Ⅲ期月曜５限
担当教員：松原信継
所　　属：愛知教育大学
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教育制度のなかでも特に学校制度に焦点をあて，日々の教育活動を成り立たしめている制度的枠組みを学ぶ。全般に教育法の学習に力点を置くが，教育制度を法規に縛られた固定的なものとして捉えるのではなく，「教育組織」内外の様々なアクターや影響力を受けながら発展していくものとして把握する。今日の国と地方自治体の間のコンフリクトも踏まえつつ，教育制度の学習が「教育の自由」の一層の理解を促し，高い専門性に基づく豊かな教育実践につながることをめざす。

●授業内容

1．はじめに―今日の教育問題から
2．憲法と教育＜１＞―戦前の教育制度と教育基本法（1947年）の成立
3．憲法と教育＜２＞―「格差是正」原理として憲法26条
4．憲法と教育＜３＞―教育と自由権（憲法13条・憲法19条～21条・23条など）
5．公教育制度とは＜１＞―６・３・３制の意義，学区制と学校選択制
6．公教育制度とは＜２＞―教育の市場化・民営化と公教育
7．組織としての公教育―学校組織と意思決定
8．教職員に関わる法制＜１＞―教育公務員特例法と研修権
9．教職員に関わる法制＜２＞―教師の勤務条件と教職免許制度（養成・採用）
10．教職員に関わる法制＜３＞―教員評価と「教育の自由」
11．学校経営と保護者・地域住民―親権の法的性格，コミュニティ・スクールとは
12．教育と教育行政＜１＞―教育課程法制，教科書問題（検定・採択）
13．教育と教育行政＜２＞―旧教基法10条における教育の「直接責任原理」
14．教育と教育行政＜３＞―新教育委員会制度の仕組みと課題，首長との関係
15．筆記試験

●成績評価の方法

筆記試験(80%)，出席状況および受講姿勢(20%)

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後，５月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱い，それ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

特に指定しない。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。なお，市川須美子他『教育小六法』平成27年版（学陽書房）があるとよい。

教育制度論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３１５８３
開講時期：Ⅲ期月曜５限
担当教員：南部初世
所　　属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

本講義は，我が国における公教育システムの枠組みについて，教育政策，教育制度，教育行政，学校経営の諸側面から総合的に理解することを目的としている。具体的には，戦後教育の歴史的展開を追いながら，教育行政・経営の機能と構造がどのように変容してきたのかを明らかにし，さらに，今日どのような課題に直面しており，それにいかに答えようとしているのか，教育改革の方向性について考察を行う。

●授業内容

1．オリエンテーション
2．戦後教育の歴史的展開(1)：戦後教育改革期〔戦後教育改革のはじまり，学校制度の改革〕
3．戦後教育の歴史的展開(2)：戦後教育の再編期(1)〔教育政策の転換〕
4．戦後教育の歴史的展開(3)：戦後教育の再編期(2)〔教育行政の再編〕
5．戦後教育の歴史的展開(4)：「教育正常化」政策と高度経済成長(1)
〔教育内容統制の強化，学校管理体制の確立及びその強化〕
6．戦後教育の歴史的展開(5)：「教育正常化」政策と高度経済成長(2)
〔経済界の教育要求と国民の教育への期待の高まり〕
7．戦後教育の歴史的展開(6)：学校病理現象の顕在化
〔子どもたちの「選別」装置としての学校，学校病理現象の発生〕
8．学校病理の問題構造(1)：「生徒心得」問題(1)〔「生徒心得」をめぐる問題状況〕
9．学校病理の問題構造(2)：「生徒心得」問題(2)〔問題解決の方途〕
10．学校病理の問題構造(3)：学級崩壊(1)〔学級崩壊の実態と原因分析〕
11．学校病理の問題構造(4)：学級崩壊(2)〔問題解決の方途〕
12．教育制度の今日的課題(1)：教育行政・経営をめぐる改革の展開〔概要〕
13．教育制度の今日的課題(2)：教育行政・経営をめぐる改革(1)〔教育委員会制度改革〕
14．教育制度の今日的課題(3)：教育行政・経営をめぐる改革(2)〔ガバナンス改革〕
15．教育制度の今日的課題(4)：教育行政・経営をめぐる改革(3)〔学校組織運営改革〕

●成績評価の方法

出席及び授業参加度（20%），提出課題（30%），最終レポート（50%）の総合評価）

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。５回以上欠席した者，あるいは，最終レポートを提出しなかった者を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆのいずれかとする。

●教科書

テキストは特に指定せず，配付資料により授業を行う。

●参考書

第１回授業時に主要参考文献一覧を配付するとともに，適宜紹介する。

教育方法論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２３５８１
開講時期：Ⅱ期水曜５限
担当教員：尾上恵子
酒井貴庸
所　　属：修文大学短期大学部
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）1年

●本講義の目的及びねらい

本講座では，教育心理学の領域から教育・学習に関する基本的概念を理解し，教科指導における様々な問題を取り上げて分析・検討を行い，授業をはじめとする学習指導はどうあるべきかを探る。そして，現代における教師の『教育力』の向上に何が必要であるか様々な側面から考察する。

●授業内容

1．教育方法論とは（ガイダンスを含む）
2．知的能力の理解①学習
3．知的能力の理解②記憶と知能
4．動機づけ①
5．動機づけ②
6．学習環境と情報機器の導入
7．学習指導法の理解①学習目標の設定
8．学習指導法の理解②集団指導と個別指導
9．学習指導法の理解③問題解決
10．学習指導法の理解④評価の方法
11．特別支援教育
12．発達障害をもつ児童・生徒への支援
13．教師の役割とは
14．まとめ（教師として問われる力）

●成績評価の方法

定期試験，小レポート，その他授業への関与などから総合的に評価する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。５回以上授業を欠席した場合及び期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

特に指定しない。

●参考書

適宜紹介する。

教育方法論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２５５８２
開講時期：Ⅱ期金曜５限
担当教員：谷　伊織
所　属：東海学園大学
対　象：理系（理）1年

●本講義の目的及びねらい

本講義では，教育心理学を含む様々な心理学の領域で得られた知見を概観した上で，児童・生徒理解のための教育方法論について学習することを目的とする。受講生においては，それらの知見をもとに，人間にとっての教育の意味を考察していただきたい。

●授業内容

1．イントロダクション
2．教育心理学と学習指導
3．学習方法の理解①
4．学習方法の理解②
5．学習方法の理解③
6．発達の理解①
7．発達の理解②
8．知能と性格の理解①
9．知能と性格の理解②
10．発達障害と教育支援①
11．発達障害と教育支援②
12．教育測定①
13．教育測定②
14．まとめ

●成績評価の方法　授業中に求める小レポート５０％，および定期試験５０％により評価する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。４回以上欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合は「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　なし

●参考書　適宜紹介する。

教育方法論

時間割ｺｰﾄﾞ：００２４５８２
開講時期：Ⅱ期木曜５限
担当教員：浅野良輔
所　属：浜松医科大学
対　象：理系（情[自]・工・農）1年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

学習主体である子どもの心のしくみに関する心理学的理解を深め，それを踏まえた教育方法の原理について学ぶ。本講義では，特定の教育方法の技術やノウハウを得るよりも，認知，動機づけ，発達など子どもの心理プロセスの基礎について知り，状況に応じた最適な教育方法を柔軟に検討できる力を身に付けることを目指す。

●授業内容

1．イントロダクション
2．教育方法論と心理学
3．記憶
4．認知発達
5．動機づけ
6．パーソナリティ
7．文章の理解と生成
8．数の理解
9．科学的認識
10．授業の理解
11．教育評価
12．発達障害と特別支援
13．メンタルヘルスと思春期の問題行動
14．まとめ

●成績評価の方法　毎回のまとめ30%，数回のミニレポート20%，期末試験50%
毎回，講義の最後に，当日の履修内容を20分程度でまとめたミニレポートを作成する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。4回以上講義を欠席した場合，あるいは期末試験を欠席した場合を「欠席」として扱い，これ以外はS・A・B・C・F（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。

●参考書　適宜紹介する。

道徳教育の研究

時間割ｺｰﾄﾞ：００３３４８１
開講時期：Ⅲ期水曜４限
担当教員：山　田　　宏
所　　属：元公立小中学校長
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）２年，３・４年，その他

●本講義の目的及びねらい

道徳教育の形骸化が指摘されてから久しい。現在では、2006年の教育再生会議で提唱された道徳の「教科化」議論以来，その動きは加速化している。本授業では，日本とアメリカの道徳に関する歴史的な経緯を振り返りながら，その特質を考察する。さらに，学習指導要領が目指す道徳的態度や道徳的実践力を育成するためには，どのような授業を展開したらよいかを教材に基づいて考え，指導のあり方についての問題意識を高める。

●授業内容

1　「道徳の時間」はなぜ形骸化したか
2　近代日本の教育課程の歩み　－　戦前の教育における道徳の指導
3　戦後日本における道徳教育①　－　アメリカが指示しなかった修身科廃止
4　戦後日本における道徳教育②　－　「道徳の時間」特設の意図
5　道徳と生活指導　－　その違いと関連性
6　アメリカにおける道徳教育①　－　デューイにみる道徳教育への社会学的接近
7　アメリカにおける道徳教育②　－　デューイにみる道徳教育への心理的学接近
8　「道徳の時間」の基本過程　－　指導過程の構成の仕方
9　実践事例（教材「お父さんのビール」）による基本過程の分析と考察
10　行為と道徳性　－　踏切内の男性を助けて死んだ女性の事故から考える道徳的態度
11　指導案の作成①　－　指導案作成の仕方（指導案は何を伝えるのか）
12　指導案の作成②　－　指導案（略案）の作成
13　指導案による模擬授業　－　発問の検討
14　道徳の「教科化」　－　その是非と今後の動向
15　「教科化」になったときの「道徳の時間」の授業展開の工夫

●成績評価の方法

期末試験（60%），小レポート・指導案（20%），参加態度（20%）

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，届け出者は「欠席」扱い，他はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

教科書は使用しない。印刷物を配布する。

●参考書

『中学校学習指導要領解説　道徳編』　文部科学省 2013年
貝塚茂樹著『道徳教育の取扱説明書ー教科化の必要性を考える』学術出版会 2012年

道徳教育の研究

●本講義の目的及びねらい

道徳教育の形骸化が指摘されてから久しい。現在では，2006年の教育再生会議で提唱された道徳の「教科化」議論以来，その動きは加速化している。本授業では，日本とアメリカの道徳に関する歴史的な経緯を振り返りながら，その特質を考察する。さらに，学習指導要領が目指す道徳的態度や道徳的実践力を育成するためには，どのような授業を展開したらよいかを教材に基づいて考え，指導のあり方についての問題意識を高める。

●授業内容

1　「道徳の時間」はなぜ形骸化したか
2　近代日本の教育課程の歩み　－　戦前の教育における道徳の指導
3　戦後日本における道徳教育①　－　アメリカが指示しなかった修身科廃止
4　戦後日本における道徳教育②　－　「道徳の時間」特設の意図
5　道徳と生活指導　－　その違いと関連性
6　アメリカにおける道徳教育①　－　デューイにみる道徳教育への社会学的接近
7　アメリカにおける道徳教育②　－　デューイにみる道徳教育への心理的学接近
8　「道徳の時間」の基本過程　－　指導過程の構成の仕方
9　実践事例（教材「お父さんのビール」）による基本過程の分析と考察
10　行為と道徳性　－　踏切内の男性を助けて死んだ女性の事故から考える道徳的態度
11　指導案の作成①　－　指導案作成の仕方（指導案は何を伝えるのか）
12　指導案の作成②　－　指導案（略案）の作成
13　指導案による模擬授業　－　発問の検討
14　道徳の「教科化」　－　その是非と今後の動向
15　「教科化」になったときの「道徳の時間」の授業展開の工夫

●成績評価の方法

期末試験（60%），小レポート・指導案（20%），参加態度（20%）

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，届け出者は「欠席」扱い，他はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

教科書は使用しない。印刷物を配布する。

●参考書

『中学校学習指導要領解説　道徳編』　文部科学省 2013年
貝塚茂樹著『道徳教育の取扱説明書ー教科化の必要性を考える』学術出版会 2012年

時間割ｺｰﾄﾞ：００４４５８２
開講時期：Ⅳ期木曜５限
担当教員：山　田　　宏
所　　属：元公立小中学校長
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）２年

教科外教育論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３３５８１
開講時期：Ⅲ期 水曜５限
担当教員：毛 利 隆 宏
所　　属：元愛知県公立小中校長
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）2　　年

●本講義の目的及びねらい

教科外教育は，教師と児童・生徒あるいは児童・生徒相互の人間的接触を深める場として重要な役割を果たしている。従って，「生きる力」を育むという理念のもと，様々な教育場面で領域の特色に応じた「分担と連携」がなされなければならない。

本授業では，相互に影響を及ぼし合いながら指導や活動を展開するための教科外教育の意義や機能を理解するとともに，班別研究協議を通して教科外教育活動の可能性を追求する。

●授業内容

1．教科外教育の概要
2．生徒指導と教育相談
3．進路指導
4．道徳教育
5．特別活動
6．総合的な学習の時間
7．外国語活動
8．グループ内課題発表
9．グループ内研究協議①
10．グループ内研究協議②
11．グループ内研究協議③
12．グループ別研究発表①
13．グループ別研究発表②
14．グループ別研究発表③
15．教科外教育論のまとめ

●成績評価の方法

・期末試験(50%)，課題・レポート(50%)
・欠席が授業回数の1/3を超える場合は，評価の対象としない。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，届け出者は「欠席」として扱い，他はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

指定しない。毎回印刷物を配布。

●参考書

講義の中で紹介する。

教科外教育論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４５５８１
開講時期：Ⅳ期 金曜５限
担当教員：毛 利 隆 宏
所　　属：元愛知県公立小中校長
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

教科外教育は，教師と児童・生徒あるいは児童・生徒相互の人間的接触を深める場として重要な役割を果たしている。従って，「生きる力」を育むという理念のもと，様々な教育場面で領域の特色に応じた「分担と連携」がなされなければならない。

本授業では，相互に影響を及ぼし合いながら指導や活動を展開するための教科外教育の意義や機能を理解するとともに，班別研究協議を通して教科外教育活動の可能性を追求する。

●授業内容

1．教科外教育の概要
2．生徒指導と教育相談
3．進路指導
4．道徳教育
5．特別活動
6．総合的な学習の時間
7．外国語活動
8．グループ内課題発表
9．グループ内研究協議①
10．グループ内研究協議②
11．グループ内研究協議③
12．グループ別研究発表①
13．グループ別研究発表②
14．グループ別研究発表③
15．教科外教育論のまとめ

●成績評価の方法

・期末試験(50%)，課題・レポート(50%)
・欠席が授業回数の1/3を超える場合は，評価の対象としない。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，届け出者は「欠席」として扱い，他はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

指定しない。毎回印刷物を配布。

●参考書

講義の中で紹介する。

教科外教育論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４５５８２
開講時期：Ⅳ期金曜５限
担当教員：三小田博昭
原順子
佐藤俊樹
中村明彦
山田孝
岡村明
中野和之
今村敦司
長瀬加代子
所属：名古屋大学教育学部附属中･高等学校
対象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

中学・高等学校における特別活動を指導する意義とその指導上の留意点や問題点について，関心と理解を深めることを目的とする。さらに，特別活動の指導と教科教育とを結ぶ教育領域について注意を喚起することもねらいとしている。現場の教師が日々の教育活動の実践を講義します。

●授業内容

1．オリエンテーション
2．教科外活動概論
3．安心・安全について
4．学校文化について
5．学級活動について
6．生活指導論
7．総合学習論
8．学校行事概論
9．キャリア教育について
10．男女平等教育について①
11．男女平等教育について②
12．地球市民教育について
13．学校評価・教育評価について
14．地域や家庭（保護者）との連携について
15．図書館指導についてついて

●成績評価の方法

期末試験と各回に時々課されるレポート。出席点が非常に重要。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。５回以上授業を欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い、これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書

全体を通じてのものはない。但し各回印刷物が配付されることがある。

●参考書

黎明書房『新しい中等教育へのメッセージ ーともに学びをつくるー』
明治図書『中・高「総合的学習」のカリキュラム開発』
その他は各回で必要に応じて紹介する。

教育課程論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３１５８１
開講時期：Ⅲ期月曜５限
担当教員：近藤茂明
所属：元愛知県公立小学校
対象：文系（文）2年

●本講義の目的及びねらい

教育課程は児童生徒の豊かな発達を保障するために組織された総合的な教育計画である。しかし，学校教育現場では教育課程の運用に重きの置かれる傾向がある反面，それ自体の意味を深く理解することには不十分さが見られる。本講では，教育課程を支える歴史的背景とその考え方，ならびに，学習指導要領，学力，学習形態，評価のあり方等について，実践的視点をふまえて理解し，教育課程を通して教育をとらえる考え方を身に付ける。

●授業内容

1．教育課程（カリキュラム）とは
2．教育課程の歴史①　近代から現代へ
3．教育課程の歴史②　日本の戦後から現代までの歩み
4．教育課程の編成①　基本的な考え方
5．教育課程の編成②　学校教育の各段階の特徴
6．教育課程の編成③　諸外国の教育改革
7．教育課程の編成④　学校マネジメント
8．カリキュラムと学力
9．学習指導要領①　戦後学習指導要領の変遷
10．学習指導要領②　新学習指導要領の特徴
11．学習スタイルと授業形態
12．カリキュラムと総合的な学習の時間
13．カリキュラムと教育評価
14．教育課程の今日的課題

●成績評価の方法

期末試験（70%），講義中の小レポートや授業参加状況（30%）

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から５月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。さらに，５回以上欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書

指定しないが，中学校ならびに高等学校の『学習指導要領解説　総則編』の入手・講読を薦める。

●参考書

『新しい時代の教育課程　第３版』田中耕治他著，有斐閣，
ISBN978-4-641-12431-8　　その他，必要に応じて授業中に紹介する。

教育課程論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３００８１
開講時期：Ⅲ期集中
担当教員：冨田福代
所属：大阪教育大学
対象：文系(教・法・経・情〔社〕)2年，理系(情〔自〕・工・農)2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

近年，日本でも教育改革が進み学校教育が大きく変化している。急速な社会変化や多様で複雑な教育問題を受けて，一定期間ごとに学習指導要領の改訂が行われ実施されている。本講では，カリキュラムに関する基本的な理論を踏まえ，現行学習指導要領の概要をつかみ重点と特徴を理解するとともに，現在進行している次期改定の動向も確認する。学校現場や児童生徒の実際を通して，学校教育における教育課程の中核である学習指導要領の意義や編成について考える。

●授業内容

1．はじめに（教育課程の意義）
2．教育課程と学校教育
3．学習指導要領の変遷
4．教育課程の編成
5．教師と教育課程
6．学習指導要領（総則）
7．学習指導要領（各教科）
8．学習指導要領（道徳，特別活動）
9．学習指導要領（総合的な学習）
10．カリキュラムと評価
11．クロスカリキュラムと新たな学習分野
12．カリキュラム，教育評価，学力問題
13．学習指導要領の改訂
14．外国の学校教育と教育課程
15．まとめ（カリキュラムの課題と方向）

●成績評価の方法

レポート試験(50%)，授業のまとめ(25%)，発表(25%)で総合的に判断する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後，５月末までに所定用紙により届け出た者は「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

文部科学省『中学校学習指導要領』，『中学校学習指導要領解説　総則編』
または『高等学校学習指導要領』，『高等学校学習指導要領解説　総則編』
各自の取得免許種・教科『学習指導要領〇〇科編』

●参考書

『続教師教育の創造－専門職としての教職を問う－』稲垣忠彦他著，評論社，
ISBN：978-4-566-05174-4　その他，必要に応じて印刷物を配布し文献等を紹介する。

教育課程論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４１５８２
開講時期：Ⅳ期月曜５限
担当教員：龍崎　忠
所属：岐阜聖徳学園大学
対象：理系（理）２年

●本講義の目的及びねらい

教職課程（カリキュラム）の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。児童・生徒の人格的発達を保障するという教育の課題は，学校教育でどのようなかたちで計画されているのであろうか。この講義では，教育課程に理論的・実践的・歴史的に幅広くアプローチすることで，現在・過去・未来の教職課程と学校での教育実践について考えてみたい。

●授業内容

１．教育課程とは何か
（１）教育課程・カリキュラム・教育内容
（２）教育課程の開発のために
２．教師・学校にとっての教職課程
（１）教育課程の編成と学習指導要領
（２）学習指導要領の構造
（３）学習指導要領の成立と変遷
３．教育課程と「学力」
（１）「学力」とは何か
（２）学力低下論争とゆとり教育
（３）現代日本の教育課程改革の動向
４．教育課程の諸理論
（１）経験主義と系統主義
（２）教育の内的事項と外的事項
（３）潜在的カリキュラムとポリティクスとしてのカリキュラム
５．教育課程と教育実践の実際
（１）教育評価の意義と方法
（２）フィンランドの教育実践を支えるもの

●成績評価の方法

期末試験もしくはレポート(70%)と出席状況を加味した講義中の課題(30%)によって総合的に行う。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から11月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。５回以上欠席した場合，あるいは，期末試験を放棄した場合は「不可」と扱う。

●教科書

指定しないが，中学校・高等学校『学習指導要領』は入手を薦める。

●参考書

初回の授業ガイダンス，その他講義時に随時紹介する。

教育心理学

時間割コード：００３４５８１
開講時期：Ⅲ期木曜５限
担当教員：高村和代
所　　属：岐阜聖徳学園大学
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

人間の発達を様々な視点から眺め，多面的に児童・生徒の理解を深めていく。さらに，児童生徒の発達の理解を踏まえ，学校教育の現場で児童・生徒とどのように関わっていくことが求められるかについて，教育心理学の視点から理解を深めていく。また，近年の教育現場で起きている諸問題についても取り上げ，これからの学校教育のあり方について，検討していく。

●授業内容

1．教育心理学とは
2．発達と学習
3．思考の発達
4．社会性の発達
5．自己意識の発達
6．人間関係の発達
7．発達のつまづき
8．学習理論
9．記憶
10．動機づけ
11．教授方法
12．個性の理解
13．学級での人間関係
14．近年の教育問題を考える
15．総括

●成績評価の方法

授業内で課される課題（30%），期末レポート（70%）。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録期間後から５月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。加えて，期末レポート未提出の場合も「欠席」と扱い，それ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

西口利文・高村和代（編）『教育心理学』ナカニシヤ出版
ISBN-13：978-4779504778

●参考書

授業時間内で適宜紹介。

教育心理学

時間割コード：００３４５８２
開講時期：Ⅲ期木曜５限
担当教員：伊藤大幸
所　　属：浜松医科大学
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

子どもを発達主体として理解し，その発達を促す教育的働きかけとは何か，心理学的な視点から考える。幼少期から学齢期に至る子どもの発達に関する原理的考察を踏まえて，学習や動機づけのメカニズム，学級内の人間関係などについて理解を深める。加えて，生まれ持った発達障害による適応の問題や思春期に増加する不登校，非行，自傷行為などの問題行動に対する対処のあり方を考える。

●授業内容

1．教育心理学とは
2．子どもの発達（1）：発達の基本原理
3．子どもの発達（2）：愛着関係の発達
4．子どもの発達（3）：遊びと友人関係の発達
5．子どもの発達（4）：社会性の発達
6．子どもの発達（5）：認知能力の発達
7．やる気を高める
8．学習のメカニズム
9．学習指導の原理
10．学級の心理学
11．個性を理解する
12．不適応問題への対処（1）：発達障害と適応
13．不適応問題への対処（2）：メンタルヘルスと問題行動
14．まとめ

●成績評価の方法

毎回の授業終了時に課すミニレポート30%，期末試験50%，平常点20%
講義内容の理解を深め，「生きた知識」とするため，毎回の授業の最後に20分程度の時間を設けて，講義の要点をまとめたミニレポートを作成する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用しない。4回以上授業を欠席した場合及び期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱う。総合成績が60点未満の場合を「Ｆ（不可）」として扱う。

●教科書

指定しない。

●参考書

桜井茂男(編)「たのしく学べる最新教育心理学ー教職にかかわるすべての人に」
2004，図書文化
矢野喜夫・落合正行「発達心理学への招待ー人間発達の全体像をさぐる」
1991,サイエンス社

教育心理学

時間割ｺｰﾄﾞ：００４２５８１
開講時期：Ⅳ期 火曜５限
担当教員：河野荘子
所　　属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）２年

●本講義の目的及びねらい

この授業では，みなさんが教師として児童生徒と接するときに必要な教育心理学の知識を，”他者に伝える”ということも含めて幅広く学ことを目的とします。この授業では，みなさんが次のことができるようになることを目標とします。(1)教育心理学の基礎的知識の習得　(2)自分の得た知識あるいは興味のあるテーマを，資料を用いたり，提示方法を工夫したりして，フロアにわかりやすく説明できる。(3)授業で取りあげられたテーマについて，疑問点や議論したい点を考え，積極的に発言し，議論に参加できる。

●授業内容

１．教育心理学とは
２．発達を理解するⅠ　　言葉の発達／認知発達
３．発達を理解するⅡ　　人格の発達
４．発達を理解するⅢ　　社会性の発達／道徳性の発達
５．学習のメカニズムⅠ　　記憶と知能
６．学習のメカニズムⅡ　　動機づけと帰属過程
７．授業過程のありかた　　学習目標／教授法／教育評価
８．集団としての学級
９．精神的健康と不適応行動Ⅰ　　不登校
10．精神的健康と不適応行動Ⅱ　　いじめ／非行
11．不適応への介入技法
12．特別支援教育

●成績評価の方法

以下の観点を総合して評価。
(1)プレゼンテーションの内容・提示方法・説明の仕方など(40%)
(2)講義後に，講義内容についてどれくらい考えを深めることができたかなどを問う小レポートを実施し，その内容および授業への積極的関与度（40%）
(3)出席状況などの平常点(20%)。 授業開始後30分以上たってから入室した者は，遅刻とする。遅刻2回で欠席1回とみなす。

欠席とＦ(不可)の判断基準：4回以上授業を欠席した場合を「欠席」と扱う。また，正当な理由なくプレゼンテーション担当日に欠席した者は「Ｆ」の評価となる。これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆのいずれかとする。

●教科書

特に指定しない

●参考書

①古川聡・福田由紀(共編)　2006　子どもと親と教師をそだてる教育心理学入門　丸善株式会社
②速水敏彦(編)　2013　教育と学びの心理学ー基礎力のある教師になるためにー名古屋大学出版会
③宮下一博・河野荘子(編著)　2005　生きる力を育む生徒指導　北樹出版
④宮下一博・濱口佳和(編著)　1998　教育現場に根ざした生徒指導　北樹出版
⑤西口利文・高村和代(編)　2010　教育心理学　ナカニシヤ出版

生徒・進路指導論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３５５８１
開講時期：Ⅲ期 金曜５限
担当教員：土屋耕治
所　　属：南山大学
対　　象：理系（理）２年

●本講義の目的及びねらい

児童・生徒に対して適切な指導を行ううえでは，発達や動機づけ，学校適応など，児童・生徒の状態を理解するための知識が不可欠である。本講義では，生徒指導・進路指導を行うために必要とされる基礎的な知識と態度を習得することを目的とする。具体的には，講義のなかで教育場面の問題に関する映像を見たり，実践の練習をしたりすることを通して，生徒指導・進路指導を効果的に行う力を身につけることを目指す。

●授業内容

１．生徒指導とは
２．これからの生徒指導の方向性
３．子どもの一般的な傾向と心理
４．児童生徒理解の方法１：様々な方法の実践
５．児童生徒理解の方法２：教員の連携
６．進路指導・キャリア教育とは
７．教師に必要とされる指導力
８．特別支援教育と生徒指導
９．現代の子どもを取り巻く問題
10．不登校の現状，理解と対応
11．いじめの現状，理解と対応
12．いじめへの対処と対応
13．グループワークによる生徒指導展開
14．まとめ
15．期末試験
※グループワーとまとめは，補講日に集中的に行う可能性があります。詳細は授業内で提示します。

●成績評価の方法

授業中の小レポート(40%)，期末試験(60%)から総合的に判断する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。６回以上授業を欠席した場合及び期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

河村茂雄（編著）『生徒指導・進路指導の理論と実際』図書文化
ISBN-13:978-4810015782

●参考書

講義で適宜紹介する。

生徒・進路指導論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４４５８１
開講時期：Ⅲ期火曜５限
担当教員：林　　克次
所　　属：日本福祉大学
対　　象：理系（情[自]・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

問題行動が発覚したとき，「呼び出して指導する」という生徒指導でよいのでしょうか。それは教師の自己満足に過ぎないかもしれません。一人ひとりの生徒に真に生きる力を涵養するには，生徒理解と人としての心のつながりが必要ではないでしょうか。

進路指導についても同様だと思います。自己の体験を踏まえて，学校・家庭・地域が連携して明日を生きる生徒のための生徒指導・進路指導を考え討議しましょう。

●授業内容

Ⅰ．オリエンテーション
　１．この半期間で何をどのように考えるか
　　自身の生徒指導・進路指導の体験を交換しながら
　２．この半期間をどのように進めるか
Ⅱ．生徒指導と教師の役割
　３．教育の意義
　４．生徒理解と生徒指導
　５．学校・地域・家庭の連携と生徒指導
　６．発達障害の二次的・三次的な障害と生徒指導
　７．学校内での連携
Ⅲ．進路指導と教師の役割
　８．進路指導の現状と課題
　９．生涯にわたって生きる力の醸成
　10．生き方指導としての進路指導
Ⅳ．教師として必要なこと
　11．レポートと事例研究，討議
　12．レポートと事例研究，討議
　13．レポートと事例研究，討議
Ⅴ．まとめ
　14．生徒とともに考える進路指導
　15．生徒とともに歩む生徒指導

●成績評価の方法

期末試験(40%)，レポート(20%)，調査研究発表内容(10%)，出席状況(30%)等を総合的に評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。また，６回以上授業を欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合も「欠席」と扱い，これ以外Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

●参考書

講義で適宜紹介する。

生徒・進路指導論

時間割ｺｰﾄﾞ：００３２５８１
開講時期：Ⅳ期木曜５限
担当教員：林　　克次
所　　属：日本福祉大学
対　　象：文系（文・教・法・経・情[社]）2　　年

●本講義の目的及びねらい

問題行動が発覚したとき，「呼び出して指導する」という生徒指導でよいのでしょうか。それは教師の自己満足に過ぎないかもしれません。一人ひとりの生徒に真に生きる力を涵養するには，生徒理解と人としての心のつながりが必要ではないでしょうか。

進路指導についても同様だと思います。自己の体験を踏まえて，学校・家庭・地域が連携して明日を生きる生徒のための生徒指導・進路指導を考え討議しましょう。

●授業内容

Ⅰ．オリエンテーション
　１．この半期間で何をどのように考えるか
　　自身の生徒指導・進路指導の体験を交換しながら
　２．この半期間をどのように進めるか
Ⅱ．生徒指導と教師の役割
　３．教育の意義
　４．生徒理解と生徒指導
　５．学校・地域・家庭の連携と生徒指導
　６．発達障害の二次的・三次的な障害と生徒指導
　７．学校内での連携
Ⅲ．進路指導と教師の役割
　８．進路指導の現状と課題
　９．生涯にわたって生きる力の醸成
　10．生き方指導としての進路指導
Ⅳ．教師として必要なこと
　11．レポートと事例研究，討議
　12．レポートと事例研究，討議
　13．レポートと事例研究，討議
Ⅴ．まとめ
　14．生徒とともに考える進路指導
　15．生徒とともに歩む生徒指導

●成績評価の方法

期末試験(40%)，レポート(20%)，調査研究発表内容(10%)，出席状況(30%)等を総合的に評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，所定の用紙により届出た者は「欠席」と扱う。また６回以上授業を欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合も「欠席」と扱い，これ以外Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

●参考書

講義で適宜紹介する。

教育相談論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４１５８１
開講時期：Ⅳ期月曜５限
担当教員：松瀬留美子
所　　属：名古屋産業大学
対　　象：文系（文・教・法・経・情〔社〕）２年

●本講義の目的及びねらい

学校教育の現場で教師が直面する生徒の諸問題から不登校，いじめ，発達障害，非行などを中心に話題を提供し，生徒の「こころ」と行動を理解し支援する関わり方について検討する。事例を理解するためにＤＶＤ映像視聴も取り入れ，思春期に発症しやすい神経症的問題や精神病理，教師のメンタルヘルスについても基礎的な精神医学的知識を習得し，対応について考える。生徒理解を深め，援助するための実践的な方法を，臨床心理学的な視点を踏まえて学ぶことを目的とする。

●授業内容

１．教育相談論を学ぶにあたって
２．教育現場におけるカウンセリングマインド
３．児童・生徒の問題の理解と対応
４．教育相談に関わる不適応・問題行動の検討
　（1）不登校
５．　（2）いじめ
６．　（3）発達障害の基礎的理解
７．　（4）発達障害－中学・高校期の課題
８．　（5）非行・問題行動の検討
９．　（6）神経症的問題
10．　（7）同一性の課題
11．　（8）虐待－教師ができること
12．学級経営に生かすカウンセリングの基礎と技法
13．保護者との関わり
14．教師のメンタルヘルス

●成績評価の方法　定期試験(60%)，提出物・授業参加態度(40%)

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。５回以上授業を欠席した場合，あるいは，期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　特に指定しない。

●参考書　講義で適宜紹介する。

教育相談論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４２５８２
開講時期：Ⅳ期火曜５限
担当教員：鈴木美樹江
所　　属：金城学院大学
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）２年，３・４年，その他

●本講義の目的及びねらい

本講義では，学校教育現場にて直面する生徒の心の諸問題に向き合うために必要な知識，姿勢，及び実践的方法について学習することを目的とする。具体的には，教育相談の意義や内容，教育相談の基盤となるカウンセリングの基礎知識を習得する。また，児童生徒を取り巻く諸問題は複雑化しているため，各ケースについて理解を深め，支援方法について考えるとともに，学内外との連携，及び予防的アプローチ方法についても検討を行う。

●授業内容

１．オリエンテーション・教育相談とは
２．教育相談の歴史・支援の基本的姿勢
３．児童・生徒の心の問題の理解と対応
４．教育相談におけるアセスメント
５．教育相談の実際（1）不登校
６．教育相談の実際（2）いじめ問題
７．教育相談の実際（3）反社会的行動
８．教育相談の実際（4）神経症的問題
９．教育相談の実際（5）虐待
10．発達障害生徒への理解
11．発達障害生徒への対応
12．保護者，教職員，地域との連携
13．教師のメンタルヘルス
14．予防開発的アプローチ
15．全体のまとめ

●成績評価の方法　期末試験(60%)，提出物・授業参加態度(40%)

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。5回以上授業を欠席した場合，あるいは期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　特に指定しない。

●参考書　講義で適宜紹介する。

教 育 相 談 論

時間割ｺｰﾄﾞ：００４２５８３
開講時期：Ⅳ期 火曜５限
担当教員：金 子 一 史
所　　属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科
対　　象：理系（情〔自〕・理・工・農）2年，3・4年，その他

●本講義の目的及びねらい

不登校やいじめ，児童虐待など，現代の児童生徒を取りまく問題は実に多様化している。また，発達障害児への適切な教育的指導を行うことは，今日的な重要なテーマとなっている。教師となるためには，児童･生徒の心理的問題への正確な理解が不可欠である。本講義では，児童生徒を理解するための様々な知識を得ると共に，教育相談の実践の基礎について学ぶことを目的とする。

●授業内容

1．オリエンテーション
2．教育相談場面で教師が果たす役割
3．相談場面での技法
4．児童思春期の心理的問題（総論）
5．学校現場で見られる心理的問題　（1）不登校
6．学校現場で見られる心理的問題　（2）発達障害（自閉症）
7．学校現場で見られる心理的問題　（3）ADHDおよび学習障害
8．学校現場で見られる心理的問題　（4）児童虐待・ネグレクト
9．学校現場で見られる心理的問題　（5）摂食障害
10．学校現場で見られる心理的問題　（6）自傷行為
11．学校現場で見られる心理的問題　（7）うつ病および統合失調症
12．学校現場で見られる心理的問題　（8）いじめ
13．学校現場で見られる心理的問題　（9）ネット依存
14．学校現場で見られる心理的問題　（10）その他の心理的問題

●成績評価の方法

期末試験50%，授業態度（出席および発言など）30%，小レポート20％

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。６回以上授業を欠席した場合および期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書

使用しない

●参考書

適宜指示する

教職実践演習

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４００５
開講時期：Ⅷ期集中
担当教員：平石賢二
他24名
所　　属：名古屋大学大学院
教育発達科学研究科

対　　象：教育実習終了者

●本講義の目的及びねらい

本演習は，学校における具体的な事象についての考察を通じて，各学部における専門的学習及び教職課程における学習を総括しつつ，卒業後の実践的研究のさらなる向上の基礎を養成することを目的とする。

●授業内容

11月20日（金）６限：オリエンテーション（全員）

11月25日（水）５限：自己課題の発表とディスカッション（各クラス）
６限：研究レポート課題の設定と担任教員からのコメント（各クラス）

11月28日（土）１限：講演会（全員）
２限：講演会（全員）
３限：ロールプレイによる事例研究（１）（２クラス合同）
４限：ロールプレイによる事例研究（２）（２クラス合同）

11日29日（日）１限：ロールプレイによる事例研究（３）（２クラス合同）
２限：ロールプレイによる事例研究（４）（２クラス合同）
３限：講演会（全員）
４限：講演会（全員）

12月12日（土）１限：研究レポート発表会（１）　（各クラス）
２限：研究レポート発表会（２）　（各クラス）
３限：研究レポート発表会（３）　（各クラス）
４限：総括と講評　（各クラス）

●成績評価の方法

研究レポートとレポート発表を中心に行う。レポートのテーマは，個々の学生自身が関心を持っている課題，ロールプレイの事例研究に関連する課題，あるいは１）学級経営，２）子どもの人権・教育の時事問題，３）保護者との関係づくり，４）教科教育，５）教師像・教師の役割，の５領域に関連する課題，のいずれかから選んで設定する。

欠席とF（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。４回以上授業を欠席した場合には「欠席」となる。ただし，やむを得ない事情による欠席で，本人から申し出があった場合には，欠席した授業を補充するための追加課題を課してそのレポートを評価したうえで成績評価（Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆもしくは優・良・可・不可）の対象とすることがある。

●教科書

特に指定しない。

●参考書

適宜紹介する。

●その他注意事項

【履修の時期】
教職実践演習は，原則として，教育実習を実施した年度に履修すること。
【授業形態】
教職実践演習は，全員が一堂に会するオリエンテーションと講演会，各クラス担任が担当する授業，２クラス合同のロールプレイというように，内容に応じて授業形態が変わるため，それぞれの授業時の教室を確認すること。
【オリエンテーションと講演会の開催場所】
全学共通棟Ｓ３０を使用する。
【各クラス担任による授業】
クラス分けや授業の場所などについては，オリエンテーション時に知らせる。教室は，全学教育棟を使用する。

英語科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００１
開講時期：Ⅴ期集中
担当教員：松本青也
所　　属：愛知淑徳大学
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

インターネットなどのＩＣＴの急速な発達にともない,今や英語が極めて便利な道具になったことは確かである。しかし「英語教育」を考えるとき,コミュニケーション能力を育てる効率的な方法を考えるだけで終わってはならない。日本人にとって「英語」がどんな意味を持っているのか,そして「学校教育」の中で,それはどんな内容を期待されるのかも含めて,教える立場から「英語」を改めて考えてみたい。

●授業内容

１．目的論：問題提起，コミュニケーション能力
２．　　学習指導要領，学校英語教育の目標
３．　　異文化と国際理解
４．技能論：Sound
５．　　Listening
６．　　Speaking
７．　　Reading & Writing
８．　　模擬授業
９．方法論：教授法の歴史
10．　　第二言語習得理論
11．　　新しい教授法　－１
12．　　新しい教授法　－２
13．　　指導過程の構成，授業評価の観点
14．　　ＩＣＴの活用
15．まとめ：これからの英語教育

●成績評価の方法　レポート試験(80%)，授業参加態度(20%)で総合的に評価する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。授業時間の３分の１を超えて欠席した場合，あるいは，レポートを提出しなかった場合を「欠席」とし，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　松本青也『（電子書籍版）英語は楽しく使うもの<2015完全版>』朝日出版社
＊電子書籍サイト アマゾン<amazon.co.jp>,楽天ブックス<books.rakuten.co.jp> などから購入してください。

●参考書　文部科学省『中学校学習指導要領』,『高等学校学習指導要領』,
松本青也(2009)『ネットで楽しく英語コミュニケーション』大修館書店

英語科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００２
開講時期：Ⅵ期金曜５限
担当教員：佐藤愛子
　　湯浅郁也
　　三小田博昭
所　　属：名古屋大学教育学部
　　附属中･高等学校
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

教育学部附属中・高等学校の英語科教員によるリレー形式の講義です。授業実践者の視点から，中等教育の現場における英語教育について取り扱います。英語でのコミュニケーション能力が求められる今，そのような教授法が効果的なのか考えていきます。

●授業内容

全15回は以下のトピックについて行います。
・中学校導入期の英語
・高等学校における英語教授法
・学習指導要領と教科書
・教授法とアクティビティ（リスニング,リーディング，スピーキング，ライティング）
・ＡＬＴとのＴＴ
・辞書指導　　など

学習指導など参加・体験的なワークショップ，討論など行いますので，積極的な受講態度が求められます。

●成績評価の方法　出席状況，授業態度，レポート，模擬授業,テスト等によって総合的に評価する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から11月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱う。加えて，出席率が７割に満たない場合も「欠席」とする。これら以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。必要な教材，資料は講義ごとに担当者が用意します。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

フランス語科教育法 Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００５
開講時期：Ⅴ期 木 曜３限
担当教員：加 藤 靖 恵
所　　属：名古屋大学大学院文学研究科
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

フランスで出版された初級フランス語文法書を精読し，日本で出版された数種類のフランス語文法概説書・教科書と比較することにより，語学教育のあり方について考察するとともに，教科教育に必要なフランス語の運用能力を修得する。受講はフランス語の教員免許状を修得する意志があるものに限る。

●授業内容

１．オリエンテーションと使用教材の説明
２．日本における初級フランス語の文法の授業と教材についての現状
３．Grammaire expliquée du français (Niveau débutant)の全体の構成について。
　日本語の文法書との比較
４．冠詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
５．名詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
６．形容詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
７．代名詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
８．関係代名詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
９．動詞全般についての説明の概要と解釈の日仏比較
10．動詞の法についての説明の概要と解釈の日仏比較
11．前置詞についての説明の概要と解釈の日仏比較
12．否定形についての説明の概要と解釈の日仏比較
13．疑問文についての説明の概要と解釈の日仏比較
14．感嘆文，強調文についての説明の概要と解釈の日仏比較
15．総括

●成績評価の方法

平常点　授業中における訳読，議論への参加を基準とする。

欠席とＦ(不可)の判断基準：４回以上欠席した場合は，「欠席」と評価する。

●教科書

Grammaire expliquée du français (Niveau débutant), CLE International

●参考書

授業中指示

フランス語科教育法 Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００６
開講時期：Ⅵ期 木 曜２限
担当教員：加 藤 靖 恵
所　　属：名古屋大学大学院文学研究科
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

フランスで出版された初級フランス語文法書を精読し，日本で出版された数種類のフランス語文法概説書・教科書と比較することにより，語学教育のあり方について考察するとともに，教科教育に必要なフランス語の運用能力を修得する。受講はフランス語の教員免許状を修得する意志があるものに限る。

●授業内容

１．前期の復習
２．フランス語文法における時制，時の観念の捉え方について（日仏の文法書の違い）
３．量の観念とその表現
４．人や物の性質の捉え方とその表現
５．比較や対立の観念とその表現
６．因果関係の観念とその表現
７．譲歩の表現
８．命令，提案，助言の捉え方と表現
９．条件，仮定，想定の観念と表現
10．議論におけるフランス語文法−意見，同意，反論に関する考え方と表現
11．フランス語と日本語の論理性の相違と文法構造
12．日仏におけるフランス語文法概説の相違--- 辞書を例に（受講生による発表を中心に議論）
13．日仏におけるフランス語文法概説の相違--- 文法辞典その他を例に（受講生による発表を中心に議論）
14．日仏におけるフランス語文法概説の相違--- 日本の高校や大学で用いられている初級・中級教科書を例に（受講生による発表を中心に議論）
15．総括

●成績評価の方法

平常点　授業中における訳読，議論への参加を基準とする。

欠席とF(不可)の判断基準：４回以上欠席した場合は，「欠席」と評価する。

●教科書

Grammaire expliquée du français (Niveau débutant), CLE International

●参考書

授業中指示

ドイツ語科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００７
開講時期：Ⅴ期 火 曜６限
担当教員：梶　浦　直　子
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

ドイツ語教育を理論と実践の両方から見据え，授業を計画・実施・反省できる能力を身につけることを目指す。Ⅴ期ではこれまでの自己の学習環境，学習方法からどのような問題，効果があるのかを振り返ることから始める。ドイツ語教育の変遷，教材研究，ドイツ語圏について理解を深め，効果的な学習方法について考えていく。

●授業内容

1．これまでの言語学習を振り返る
2．これまでの言語学習の評価，改善点を探る
3．外国語学習の変遷（1）
4．外国語学習の変遷（2）
5．教材研究（1）日本で出版された教材
6．教材研究（2）ドイツ語圏で出版された教材
7．教材研究（3）新しいメディア
8．効果的な学習法（1）（Hören）
9．効果的な学習法（2）（Lesen）
10．効果的な学習法（3）（Sprechen）
11．効果的な学習法（4）（Schreiben）
12．効果的な学習法（5）（Wortschatz）
13．模擬授業の計画
14．模擬授業の実践
15．まとめ：ドイツ語教育の目標

●成績評価の方法：授業参加度（50%），発表（20%），レポート（30%）

欠席とF(不可)の判断基準:履修取り下げ制度は採用しない。授業回数の３分の１を超えて欠席した場合，あるいはレポートを提出しなかった場合を「欠席」とし，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。必要な資料は講義ごとに配付する。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

ドイツ語科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００８
開講時期：Ⅵ期 水 曜２限
担当教員：梶　浦　直　子
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

ドイツ語教育を理論と実践の両方から見据え，授業を計画・実施・反省できる能力を身につけることを目指す。Ⅵ期では前期に習得したドイツ語教育の変遷，教材研究，ドイツ語圏についてさらに理解を深める。新しい教授法，各種ドイツ語検定試験等にも目を向け，効果的な学習方法について考えていく。

●授業内容

1．EUの中のドイツ，ドイツ語
2．ドイツ語圏研究（1）ドイツ
3．ドイツ語圏研究（2）オーストリア
4．ドイツ語圏研究（3）スイス
5．ドイツ語検定試験研究（1）ドイツ語検定
6．ドイツ語検定試験研究（2）Goethe-Institut
7．ドイツ語検定試験研究（3）オーストリア・ドイツ語検定
8．教材研究（4）映画，ドラマ
9．教材研究（5）文学作品
10．教材研究（6）新聞，雑誌，インターネット
11．プロジェクト授業とは？
12．プロジェクト授業の計画
13．プロジェクト授業の実践
14．プロジェクト授業の評価
15．まとめ：これからのドイツ語教育

●成績評価の方法　授業参加度（50%），発表（20%），レポート（30%）

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。授業回数の３分の１を超えて欠席した場合，あるいはレポートを提出しなかった場合を「欠席」とし，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。必要な資料は講義ごとに配布する。

●参考書　講義の中で適宜紹介する。

国語科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００３
開講時期：Ⅴ期 水曜３限
担当教員：寺　井　　一
所　　属：中 部 大 学
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

受講生の各々受けてきた中等教育段階での国語科の授業を対象化することから始め，現在の中高生にどのような国語科の授業をどのように行っていったらよいかを追究し，国語科教員として教壇に立つために必要な理論を身につける。国語科教育での基本となる方法と指導上の留意点について，発表や討論も行いながら理解と考察を深め，理論化していく。また，「話すこと・聞くこと」領域の能力の向上が国語科教育にも求められていることも踏まえ，この領域の指導の理論と方法について特に理解を促す。

●授業内容

１．学習指導要領（国語編）の内容の概説と検討
２．各分野の指導の理論と方法
　(1)　国語科教育全般に共通すること
　(2)　現代文分野の指導
　(3)　古典（古文・漢文）分野の指導
３．「話すこと・聞くこと」領域指導の理論と方法
　(1)　対話の方法について（話し方の実習を含む）
　(2)　発表や討論の方法について
　(3)　「話すこと・聞くこと」領域の指導に必要な日本語音声についての知識

※上記の順に講義を進めるのでなく，講義全体を通して上記の内容に触れられるように行う。
※「２．各分野の指導の理論と方法」については，教科書教材をいくつか取り上げ，それをどのように授業で扱うか具体的に検討しながら講義を進める。その際，受講者の考えを発表し，討論する方法も取り入れる。

●成績評価の方法　期末レポートや小レポート，平常点（発表内容や討論での貢献度）を総合して評価する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用し，履修登録修正期間後から５月末までに所定の用紙により届け出た者は「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。

●参考書

中学校学習指導要領解説　国語編　文部科学省（東洋館出版社）978-4-491-02380-9
高等学校学習指導要領解説　国語編　文部科学省（教育出版）978-4-316-30021-4
音声言語教育実践史研究　増田信一（学芸図書K.K.）4-7616-0251-1
日本語教育を目指す人の基礎から学ぶ音声学　鹿島央（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）4-88319-231-8
国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語　山田敏広（くろしお出版）978-4-87424-394-7

国語科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０１４０００４
開講時期：Ⅵ期 火曜５限
担当教員：今 村 敦 司
　　佐 光 美 穂
所　　属：名古屋大学教育学部
　　附属中･高等学校
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

現在，国語科で指導する領域は，「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の三領域である。それぞれの領域をどのように捉え，現在の中高生にどのように指導すべきか，指導にはどのような知識・技能が必要かについて模擬授業の実践をふまえて講義を進めていく。国語科教育において普遍性をもつ事項を中心とするとともに，受講者の中高生時代とは内容が違ってきていることも扱う。

●授業内容

１．現代文，古文，漢文等の教材化について
２．指導と評価方法について
３．指導案の書き方と授業の準備について
４．模擬授業とその検討

※なお，期末試験において，古文・漢文を中心にして，国語科の授業実践に必要な基礎力を問うので，各自の状況に応じ学習をしておくこと。

●成績評価の方法　授業中の模擬授業，レポート，参加状況と試験を総合して評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。５回以上欠席した場合と，期末試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可・不可）のいずれかとする。

●教科書　『精選 国語総合 改訂版 現代文編』，『精選 国語総合 改訂版 古典編』筑摩書房

●参考書　『国語表現テキスト』名古屋大学教育学部附属中・高等学校国語科編

社会科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４２００
開講時期：Ⅴ期集中
担当教員：松本　康
所　属：信州大学
対　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

この講義は中学校における社会科の指導が可能になることを目的とする。自らの経験を踏まえて社会科という教科の意義と背景と実践を理解し，単元指導案を作れるようになることをめざす。

1．社会科の意義と歴史について理解できること。
2．中学校社会科のカリキュラムと授業実践について理解できること。
3．年間指導計画と単元指導案を作れるようになること。

●授業内容

1．ガイダンス－社会科の経験を振り返る（資料配付，課題提示）
2．社会科の歴史１（社会科の成立と初期社会科）
3．社会科の歴史２（山びこ学校）
4．社会科の歴史３（社会科の変遷）
5．社会科の目標１（教育基本法と社会科）
6．社会科の目標２（小・中・高の目標と中学校社会科）
7．社会科の内容と方法１（地理的分野１－実践の検討）
8．社会科の内容と方法１（地理的分野２－学習指導要領）
9．社会科の内容と方法２（歴史的分野１－実践の検討）
10．社会科の内容と方法２（歴史的分野２－学習指導要領）古代～中世
11．社会科の内容と方法２（歴史的分野３－学習指導要領）近現代
12．社会科の内容と方法３（公民的分野１－学習指導要領）
13．社会科の内容と方法３（公民的分野２－実践の検討）
14．社会科の内容と方法４（年間指導計画案の検討（地理）（歴史）（公民）：Ｇ．Ｗ．）
15．単元指導案構想の検討（Ｇ．Ｗ．）
（注）Ｇ．Ｗ．：グループワーク

●成績評価の方法　毎時間の感想（10%），ワークシート課題６つ（40%），単元指導案作成レポート（50%）によっておこなう。３分の２以上の出席を最終レポートの提出資格とする。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用する。６回以上授業を欠席した者，あるいは最終レポート（単元指導案）未提出者を「欠席」とする。これ以外は，課題提出状況と最終レポートの内容により，Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優・良・可･不可）のいずれかとする。

●教科書　文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版，2008年

●参考書　日本社会科教育学会編『新版　社会科教育事典』ぎょうせい，2012年

社会科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４２１０
開講時期：Ⅵ期水曜５限
担当教員：隅田久文
　　佐藤俊樹
　　山田　孝
　　中野和之
所　属：名古屋大学教育学部
　　附属中･高等学校
対　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

社会科教育について実践的に学ぶ。社会認識を育てるために社会科教師はどんな努力が必要かを多方面から考えていく授業としたい。中学校の社会認識の思考の段階を考えた模擬的な授業を全員が経験することで，自信をもって教壇に立てることを目的とする。

●授業内容

1．中学の社会科の現状，なぜ社会科教師をめざすのか
2．学習指導案について，授業の組み立て方
3．授業を組み立てよう（1）地理的分野
4．授業を組み立てよう（2）地理的分野
5．授業を組み立てよう（3）地理的分野
6．授業を組み立てよう（4）地理的分野
7．授業を組み立てよう（5）歴史的分野
8．授業を組み立てよう（6）歴史的分野
9．授業を組み立てよう（7）歴史的分野
10．授業を組み立てよう（8）歴史的分野
11．授業を組み立てよう（9）公民的分野
12．授業を組み立てよう（10）公民的分野
13．授業を組み立てよう（11）公民的分野
14．授業を組み立てよう（12）公民的分野・まとめ
15．テスト

●成績評価の方法　毎回の授業とその評価を総合的にみる。最後に試験を実施する。
出席点重視。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。欠席が全体の３分の１を超えた場合はＦ（不可）とする。

●教科書　『中学社会地理的分野』　金田章裕他　日本文教出版
『中学社会歴史的分野』　鈴木正幸他　日本文教出版
『中学社会公民的分野』　佐藤幸治他　日本文教出版

●参考書　特になし。

地理歴史科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４３００
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：久　野　弘　幸
所　　属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

本講義では，学習指導および教育課程に関する基本的な事項について解説するとともに，生徒の主体的な学びを促す授業実践の事例を分析する。これにより，高等学校における地理歴史科の指導を行うために必要となる基礎的な力量を形成することを目的としている。

●授業内容

1　イントロダクション：現代の教育・学校はどこにいるのか　－「２１世紀の学び」－
2　教育課程の概要と「社会系教科」　－目的と意義・内容構成－
3・4　高校社会の学力とは？　－センター試験とアビトゥアの比較分析－　（ＧＷ）
5・6　社会科授業の授業分析①（中学校）　－探求的な授業はどのように展開されているか？－
7　授業づくりの基礎基本　－単元を作るとは？探求的な学びとは？－
8　中学校社会科の目標・内容の概説　－高校での地歴科を学ぶ前に，生徒は何を，どのように学んでいるのか？－
9～12　地歴科の「単元構想」の開発・提案　－課題設定と探求的な学びの視点から－
＊地理・歴史グループに分かれ，グループワークにより，生徒が探求的に学べる学習過程を構想し，教材や授業の導入場面（学習課題の提示）の開発を行う。その際に，身につけるべき資質能力の視点（関心・意欲，思考力・判断力・表現力，技能）を踏まえ，「単元」の発想および「課題設定」を重視する。
13　前日の単元構想発表の振り返りとディスカッション
14・15　社会科授業の授業分析②　－授業記録から読み解く子どもの社会認識－
16　レポート試験または，最終試験の実施

●成績評価の方法

授業における主体的参加（関心・意欲：３０％），授業後の課題レポート（思考・表現：３０％），レポート試験または最終試験（知識・理解：４０％）を基本に評価する。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。正当な理由なく５コマ以上欠席した場合，あるいは，レポート試験（最終試験）を未提出または欠席した場合を「欠席」とし，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆで評価する。

●教科書

・二谷貞夫他編（2013）『中等社会科ハンドブック　〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き』学文社
・文部科学省（2013）『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編（平成２６年１月一部改訂）』教育出版

●参考書

・奈須正裕，久野弘幸，齊藤一弥著（2013）『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる』ぎょうせい

地理歴史科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４３１０
開講時期：Ⅵ期 金曜５限
担当教員：曽　我　雄　司
　　中　野　和　之
　　山　田　　孝
　　佐　藤　俊　樹
所　　属：名古屋大学教育学部附属中･高等学校
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を踏まえ，教材研究，授業指導案の作成から模擬授業までを実践し，検討し合う。

●授業内容

１．地理歴史科の教材研究のあり方
２．授業案作成の実践
３．教育現場からの実践的な学習指導要領解説
４．地理歴史科の模擬授業の概要
５．模擬授業の実践と検討
　　－一人あたり約20分～30分の授業を輪番で行い，評価し合う－
６．まとめ

●成績評価の方法

毎回の授業とその評価を総合的にみる。最後に試験を実施する。出席点重視。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。６回以上授業を欠席した場合，あるいは，定期試験を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書

授業で使用する資料は適宜配布。

●参考書

特になし。

公民科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４４００
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：山　田　　孝
所　　属：名古屋大学教育学部附属中・高等学校
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

公民科の教師を志望する学生を対象とする。公民科教員たるにふさわしい素養を身につけるために，社会科・公民科の成立過程を理解し，公民科の目標についての理解を深める。また，公民科の基礎的知識を学ぶために，講義形式，個人作業，グループワーク等の様々な方法を試み，上記の知識と関連させながら各人が公民科の授業を構成できる力を養うことを目的とする。

●授業内容

1．はじめに　社会科の教師として生きる（講義形式と討論）
2．すぐれた公民科の授業とは何か　公民科授業の実践を分析する（その１）
　（講義形式とグループ作業）
3．振り返りレポート作成（これまでのまとめ作業）
4．戦前日本の中等地理・歴史・公民科教育（講義形式）
5．戦後日本の中等社会・歴史・公民科教育（講義形式と個人作業）
6．授業実践の研究（その１）
　中学公民科の授業　　（講義形式とグループ作業）
　ビデオ資料
7．中間レポート作成　公民科教育の意義と課題について（個人作業）
8．公民科教育の意義と課題　公民的資質の形成と公民教育
9．授業実践の研究（その２）
　現代社会の授業　　（講義形式とグループ作業）
　ビデオ資料
10．すぐれた公民科の授業とは何か　公民科授業の実践を分析する（その２）
　（講義形式とグループ作業）
11．現行公民科のねらいと組織
12．授業実践の研究（その３）
　政治経済の授業・倫理の授業　（講義形式とグループ作業）
13．すぐれた公民科の授業とは何か　公民科授業の実践を分析する（その３）
　（グループ作業と発表授業）
14．公民科教育の今後について　新学習指導要領から読み解く（講義形式）
15．まとめレポートの作成（レポート試験）

●成績評価の方法

授業への出席・討論への参加度・意欲・努力（３０％），授業レポート・２回を予定（各１０％），レポート試験（５０％）

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。特別な事情がない限り欠席は認めない。与えられた課題に誠実に取り組み，真面目に授業に参加すること。５回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかの評価とする。

●教科書

特になし。授業で使用する資料は適時配付する。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。

公民科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０２６４４１０
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：川　田　基　生
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

高等学校公民科教諭になること，およびその実り多い教育活動の礎の形成についての方向性を示すことを目的とする。

文学部，教育学部内の狭小な領域に早期から専門分化した学生が大多数であることに留意し，総体的，かつ科学的な社会，人間の見方の育成につとめたい。

●授業内容

1．この仕事　高等学校公民科教諭の生活と仕事　３５年間の教員生活を回顧
2．難関高校公民科採用試験　合格の条件　司法試験並みの準備態勢の量と質
3．「言葉，言葉，言葉」指導案の構成３要素　声　問と答　ハムレットの独白
4．【現代社会分野】時事問題　外国の新聞，雑誌の記事を読んで出席を
5．【現代社会分野】『六法』は教材の宝庫　六法持参　中古本可
6．【現代社会分野】現代社会の誕生『資本論』1-7-24-3
7．【現代社会分野】現代史　日銀総裁吉野俊彦『私の戦後経済史』
8．【倫理分野】幸福論　アリストテレス『ニコマコス倫理学』1-4-9
9．【倫理分野】愛について　『新約聖書』１コリ　13-1　スウェーデンボリの所説
10．【倫理分野】学問論　『論語』夢に周公を見ず　大拙の東洋的一
11．【政治経済分野】日本軍国主義の復活　羽仁五郎の所説
12．【政治経済分野】数的認識と事論理　ドイツ社会統計学講義　リカードの比率
13．【政治経済分野】雇用の増加　ケインズ『一般理論』国債とインフレ
14．総括としての試験

●成績評価の方法

提出物，スピーチ，試験により総合的に評価（１：１：８）。憲法違反の言動は大減点。例外的ではあるが，レポート及び口頭試問での単位認定の選択肢も設定する。詳細は，第２回目の授業で説明。

欠席とＦ（不可）の判断基準：試験を「欠席」かつ前述の「例外の選択」でない場合は欠席と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）とする。

●教科書

『論語』『聖書』鈴木大拙『仏教の大意』アリストテレス『ニコマコス倫理学』
ルソー『人間不平等起源論』マルクス『資本論』は講義中自宅の座右に（質問歓迎），プリント配付

●参考書

川田他共著『社会科教育の道標』第一法規
川田他共著『生命の教育』清水書院

数学科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０６８４５００
開講時期：Ⅴ期集中
担当教員：深川英俊（皇學館大学）
所　属：川村司（豊田工業大学）
飯島康之（愛知教育大学）
福谷敏（愛知県立高等学校）
対　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

現代社会における数学教育の本来の目的に沿って，これからあるべき数学教育の理念および具体的な方法の基礎を習得する。また学習指導要領の改訂にともなう問題点も検証する。

●授業内容

1．数学教育史概論
2．高等学校学習指導要領（数学編）の解説
3．数学的問題解決に関する研究とその影響
4．数学教育におけるテクノロジー利用に関わる問題
5．教材研究の楽しみ
6．成績評価と内在する問題
7．生徒からよく出る質問とその対応について
8．戦後の中等教育における数学科の学習指導要領の変遷およびその背景
9．幾何学作図問題の研究，特に正１７角形の作図
10．文化としての日本の数学
11．現在も残る日本の数学文化財から学ぶ
12．数理折り紙の紹介と演習

●成績評価の方法

59点以下は不可。５回の講義（飯島，福谷，川谷が各１日，深川が２日担当）すべて出席を原則とする。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。履修登録者にはＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかの評価とする。ただし,全日程を欠席した場合は「欠席」とする。

●教科書

なし

●参考書

深川英俊著『聖なる数学』（Princeton University Press,2004）
Robert Geretschlager 著『折紙の数学』
高木貞治著『初等整数論講義』
モノグラフ「公式集」（科学新興社）
Polya 『いかにして問題を解くか』（丸善）

数学科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０６８４６００
開講時期：Ⅵ期火曜５限
担当教員：渡邉武志
大羽徹
浅井希和
松本真一
所　属：名古屋大学教育学部附属中･高等学校
対　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

学習指導要領における数学教育の目標を明確にし，中学校及び高等学校数学の教材のつながり，教育方法について述べ，数学教育のあり方を考える。さらに指導案の書き方について解説し，指導案に基づく模擬授業を行う。この模擬授業を通して，授業法，学習の評価法等を考え，数学科教師としての基礎知識を身につける。

●授業内容

1．学習指導要領における数学科について（中学校・高校）
2．中学校・高校の数学科教材のつながりについて
3．実践的な教材研究法
4．数学科学習指導案について
5．中学校教材についての模擬授業及び批評
6．高等学校教材についての模擬授業及び批評
7．数学科における評価法について

●成績評価の方法

出席及び随時課すレポートにより評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。与えられた課題に誠実に取り組み，まじめに授業に参加すること。５回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかの評価とする。

●教科書

指定しない。

●参考書

文部科学省　中学校･高等学校『学習指導要領』,中学校『数学１，２，３』教科書,
高等学校『数学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ａ，Ｂ』教科書

理科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０９８４７００
開講時期：Ｖ期集中
担当教員：大蔵　聡
（名古屋大学大学院生命農学研究科）
金田英宏
（名古屋大学大学院理学研究科）
吉田　淳
（名古屋学院大学）
佐伯平二
（愛知工業大学）
原　英俊
（元名大附属学校）
対　象：3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

理科教育がいかにあるべきかについて，理科教育の目標，内容，教育方法，社会の中における役割など様々な面から考察する。また，理科教師として視野を広げるための一助として，理科に関する学問分野の最新の話題についても解説を行う。

●授業内容

1．理科教育の目的・目標について：中等教育段階の教育課程における理科教育の目的目標について概説する。
2．理科の学習指導について：中学生・高校生の科学的認識に応じた学習指導と評価のあり方について概説する。
3．理科学習の心理学について：理科を学習する心理的側面について概説する。
4．動物の繁殖を制御する生理メカニズムの探索
5．赤外線で宇宙を探る
6．科学系博物館での理科教育の目的と活動事例
7．生涯学習での理科教育の目的と活動事例
8．理科教育に役立つ科学実験
9．理科教育の変遷とその問題点について

●成績評価の方法　出席とレポートにより評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。授業を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　受講者に別途通知。

●参考書　受講者に別途通知。

理科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０９８４８００
開講時期：Ｖ期集中
担当教員：石川久美
竹内史央
西川陽子
中村　忍
斉藤　瞳
所　属：名古屋大学教育学部附属中･高等学校
対　象：3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

中学・高等学校の理科教師が，理科教育全体について講義し，理科教育に対する関心を深めることを目的とする。また，理科教育の実践について触れることで，理科教育の現状と可能性について考えていく。

●授業内容

1．中学校学習指導要領について
2．高等学校学習指導要領について
3．中学校理科の現状と問題点
4．中学校理科の模擬授業（含む，指導案作成）
5．高校物理の現状と問題点
6．高校物理の模擬授業（含む，指導案作成）
7．高校化学の現状と問題点
8．高校化学の模擬授業（含む，指導案作成）
9．高校生物の現状と問題点
10．高校生物の模擬授業（含む，指導案作成）
11．理科教育に関するトピックス等

●成績評価の方法　出席とレポート試験により評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。授業を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　指定しない。

●参考書　特になし。

商業科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０４０９１００
開講時期：Ｖ期金曜１限
担当教員：角ヶ谷　典幸
所　　属：名古屋大学大学院経済学研究科
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

商業簿記に関する基本的内容の講義を通じて，簿記の教育方法について，実践的に学習することが目的である。

●授業内容

1．簿記の目的・取引・仕訳・勘定・試算表
2．商品売買・現金預金
3．手形の記帳方法
4．有価証券・その他の債権債務・収益及び費用・訂正仕訳
5．主要簿・補助簿（補助記入帳・補助簿）・伝票（3伝票・5伝票）
6．伝票・補助簿・試算表の総まとめ　『総まとめ問題集』も使用
7．決算整理（売上原価・精算表・貸倒れなど）
8．決算整理（減価償却・費用収益の繰延と見越）
9．決算（精算表の作成）　『総まとめ問題集』も使用
10．決算（損益計算書・貸借対照表の作成）　『総まとめ問題集』も使用
11．簿記の演習１
12．簿記の演習２
13．簿記の演習３
14．簿記の演習４
15．総まとめ演習

●成績評価の方法　提出課題（５０％）と講義への参加度（５０％）により総合的に判断する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。期限までにレポートを提出しない者を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　『簿記3級テキスト･問題集･解答集』,『ステップアップ問題集』,『答練問題』

●参考書　中村忠『現代簿記』白桃書房

商業科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０４０９２００
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：小見山　隆行
所　　属：愛知学院大学
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

商業教育に関する基礎的な知識・技術の習得とともに，教師として望ましい態度や心構え等の養成を図る。講義は理論に傾斜することなく，受講生の主体的，実践的，体験的な取り組みを重視し，学習指導案の作成，模擬授業の実践，評価等，基本的な指導技術の向上等を目指す。

●授業内容

1．日本商業教育史（その１）―近世における商人教育―
2．日本商業教育史（その２）―近代における商業教育―
3．戦後の商業教育の考察―学習指導要領の変遷を通して―
4．教科「商業」の目標と教科の組織
5．教育課程編成の原理と演習
6．学習指導法の原理と学習指導案の作成方法
7．思考力・判断力・表現力を高める魅力ある授業の工夫
8．「簿記」の学習指導案の作成と授業の進め方
9．「簿記」（その１）の模擬授業
10．「簿記」（その２）の模擬授業
11．「ビジネス基礎」の学習指導案の作成と授業の進め方
12．「ビジネス基礎」（その１）の模擬授業
13．「ビジネス基礎」（その２）の模擬授業
14．産業社会の変化とこれからの商業教育
15．総まとめ（教師論と教育実習）

●成績評価の方法　レポート(60%)，授業参加度(40%)を総合して評価する。

欠席とＦ(不可)の判断基準：欠席時数が授業総時間数の３分の１を超える時は「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆのいずれかとする。

●教科書　教材としては,随時,プリントを配付する。

●参考書　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』

農業科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０９８２３１０
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：大河内　信夫
所　　属：元千葉大学
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

高等学校専門学科の一つである農業関係学科の教育を対象にして，教育制度史，教育思想，教育課程編成，教授方法，農業教育の現状と課題等について，概説する。講義の目的は，高等学校農業教育の理論的課題の理解を中心とする。

●授業内容

講義の内容は以下の項目について行います。

1．農業教育の位置づけ　農業教育の前提としての農業技術論
2．日本農業教育史概説（1）　学校制度として成立した農業教育
3．日本農業教育史概説（2）　学校の農業教育に対する批判「塾風運動」
4．日本農業教育史概説（3）　新制高等学校の成立と農業教育
5．教科の目標と職業観
6．農業政策と農業教育　　農業基本法と自営者養成目標の破綻
7．農業諸学科の現状　　学科改廃と在籍生徒数の推移，卒業後の進路動向
8．職業教育としての農業教育　　新しい農業の担い手養成
9．総合学科の設置と特色　　総合学科での農業教育の位置
10．農業教育の方法（1）　授業と教材
11．農業教育の方法（2）　実習論を中心に技能教授の方法について

●成績評価の方法　集中講義のため全日程出席が前提。レポート及び毎日の授業感想の提出により評価。

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。３分の１以上授業を欠席した場合，あるいは，レポートを提出しない場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　各授業内容ごとにプリントを配布。

●参考書　農林統計協会編『農業教育問題』農林統計協会 1987年
高山昭夫『日本農業教育史』農文協 1981年

農業科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０９８２３２０
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：名　取　一　好
所　　属：元国立教育政策研究所
対　　象：3･4年, その他

●本講義の目的及びねらい

学習指導要領等を基に，農業教科の学習指導法および指導計画や学習評価の目的とその方法について学ぶとともに，指導計画案の作成，模擬授業，ならびに農業高校における授業分析を通して，当該教科における指導の実践的感覚および力量の形成を目指す。

●授業内容

1．テキストとして「高等学校学習指導要領解説（農業編および総則編）」を用い，学習指導要領の意義およびその見方，農業教科の目標，各農業科目の目標・内容，ならびに教育課程編成等に関わる様々な留意点について解説する。
2．農業教科の学習指導法および学習指導計画の目的とその方法等について，具体的な例を挙げながら解説するとともに，指導計画案の作成および模擬授業を行う。
3．評価基準およびそれに基づく新しい学習評価のあり方について解説するとともに，指導要録についても言及する。
4．農業教科における課題研究，総合的な学習の時間，ならびに総合実習のあり方について具体的な事例を用いて解説する。
5．世界の教育制度および農業教育の現状等について，先進国や近隣諸国などを例に解説する。
6．教科書行政，特に検定・供給制度の現状とその問題点を探るとともに，農業教科における教科書内容の変遷と現状について解説する。また，内容分析等を含めた教科書研究を行うとともに，その研究方法についても言及する。
7．実践的な態度を養うために，農業高校における授業の現状についてＶＴＲソフトを用いた授業分析を通して解説する。
8．その時々の主要な農業問題および教育問題等について適宜紹介するとともに，教師としての教授能力育成の観点から，それらをテーマとした討議法による授業も行う。
9．農業科教育法Ⅰやこれまでの学習成果のまとめとして，指導計画案の作成およびそれに基づく模擬授業を行い，実践的な指導法を解説する。

●成績評価の方法　授業内での小テスト等による平常点（30%），授業中に課す小レポート（30%），授業終了時の最終レポート（40%）

欠席とＦ(不可)の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。３分の１以上授業を欠席した場合，あるいは，レポートを提出しない場合を「欠席」と扱い、これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　文部科学省『高等学校学習指導要領（総則，農業）』，配布プリント

●参考書　奥広公利監修『高等学校農業教育の変遷と展望』筑波書房
厚沢留次郎著『農業科教育法』農業図書

情報科教育法Ⅰ

時間割ｺｰﾄﾞ：０５０８０００
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：茂登山清文（情）
時田恵一郎（情）
久木田水生（情）
鈴木　泰博（情）
横山　　智（環）
中野　牧子（環）
依田　　憲（情）
所　　属：名古屋大学大学院環境学研究科，情報科学研究科
対　　象：3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

情報についての考え方，情報の収集と発信，情報の活用，情報機器の活用などの現状を理解し，それに基づいて，高等学校における情報教育の意義，目標および内容について理解し，情報科ではどのように教えるか，について考える。

●授業内容

1．情報教育の意義
2．情報の哲学的理解
3．情報の科学的理解
4．情報の視覚的理解
5．情報と環境

●成績評価の方法　出席の状況，レポート等から総合的に評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度を採用する。集中講義のため，初日に行われる講義が終了するまでの間に所定の用紙により届け出た者は「欠席」とし，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　前もっては特に指定しないが，必要に応じて適宜講義中に指示する。

●参考書　講義中に必要に応じて紹介する。

情報科教育法Ⅱ

時間割ｺｰﾄﾞ：０５０８００１
開講時期：Ｖ　期　集　中
担当教員：鈴　木　善　晴
竹　内　史　央
所　　属：名古屋大学教育学部附属中･高等学校
対　　象：3･4年，その他

●本講義の目的及びねらい

情報科教育法Ⅰで学んだ理論を踏まえ，教材研究，授業指導案の作成から模擬授業までを実践し，検討し合う。また，担当者が教育学部附属中・高等学校の教員であることから，実践を踏まえ，具体的で実践的な情報科の技術及び理論について学ぶ。

●授業内容

1．情報科の学習指導要領について
2．情報科の現状と課題
3．情報科の教材研究のあり方
4．授業案作成の実践
5．情報科の模擬授業および批評
6．模擬授業の実践と検討
7．まとめ

●成績評価の方法　出席，講義中の発表，レポートにより評価。

欠席とＦ（不可）の判断基準：履修取り下げ制度は採用しない。集中講義のため，４コマ以上授業を欠席した場合を「欠席」と扱い，これ以外はＳ･Ａ･Ｂ･Ｃ･Ｆ（優･良･可･不可）のいずれかとする。

●教科書　使用しない。適宜講義資料を配布。

●参考書　講義中に必要に応じて紹介する。